



平成21年度  
**森林・林業施策の進捗について**



平成22年12月  
**岐 阜 県**

## 基本理念

「揺るぎない長期的展望と県民協働による持続可能な森林づくり」

## 森林づくりの目指す姿

「植えて、育てる」そして「伐って、利用する」という「生きた森林づくり」

## はじめに

- ◇ 近年、森林は、水資源のかん養や災害の防止などの機能だけでなく、二酸化炭素の吸収源や貯蔵庫としての重要性を増してきました。今年、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が東海地方で開催されたため、県民の森林に対する関心も更に高まってきております。
- ◇ 国は平成21年12月に「森林・林業再生プラン」を策定し、「コンクリート社会から木の社会への転換」という理念のもと「10年後の木材自給率50%以上」という意欲的な目標を示しました。こうした国の方針は、岐阜県が進める「生きた森林づくり」の方向性と一致するものであり、本県の施策推進の追い風になるものです。
- ◇ 平成22年6月12日、13日の両日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、「第30回全国豊かな海づくり大会」を開催し、多くの県民にご参加いただきました。「環境」の視点を重視した大会として、森・川・海が一体となった自然環境保全の大切さを全国に向けアピールできたことは、大変意義深いものでした。大会を通じて得られた、貴重な経験を活かして、平成24年に開催される「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」へのつながりの中で、「清流の国ぎふづくり」を一層推進してまいります。

## 平成21年度施策の総括評価

平成21年度は「新緊急間伐推進五ヶ年計画（H17～H21）」の終期であり、5年間で約72,200ha（進捗率98%）の間伐が行われました。その結果、多くの間伐未実施林分が解消され森林の公益的機能が高まるなど、災害に強い森林づくりが進みました。

反面、世界同時不況による木材需要の減少から、本県の木材生産量は伸び悩み、県産材住宅の建設戸数も減少傾向にあるなど、産業的には厳しい状況が続いています。

現在、中津川市では、年間10万 $m^3$ の木材需要先となる合板工場の整備が進んでいます。また、「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」は県下12箇所で行われるなど、安定的に木材を供給するための取組は、県下全域に広まりつつあります。さらに、こうした森林づくりを現場で担う施業プランナーも育成され、木材生産の基盤となる約193kmの路網が整備されるなど、「伐って、利用する」準備は順調に進んでいます。

## ① 健全で豊かな森林づくりの推進

### 【間伐】

表－1 間伐の実施面積

(単位：ha)

年度	H17	H18	H19	H20	H21	小計	目標(H23)
目標	12,800	14,800	15,200	15,500	15,700	74,000	14,800
実績	12,971	15,836	14,559	14,428	14,373	72,167	-

注：年度別目標値は「新緊急間伐推進五ヶ年計画（H17～H21）」に基づく

【評価】民有林の人工林における間伐は、平成 17 年度からの 5 年間で約 72,200ha（進捗率 98%）が実施されました。その結果計画策定時に間伐未実施だった森林の多くが解消されるなど、災害に強い森林づくりが進みました。しかし、取組を強化している利用間伐の割合は、平成 20 年度の約 18%から平成 21 年度は 1%増の約 19%とほぼ横ばいでした。

【対応】平成 21 年度末に新たに策定した「岐阜県間伐推進加速化計画（H22～H26）」に基づき、高齢級（50～60 年生）森林の間伐や、利用間伐の重点実施を進めます。



補助事業による間伐実施林

### 【治山】

表－2 山地災害危険地区における「治山工事」着手率

(単位：%)

年度	H17(計画時)	H19	H20	H21	目標(H23)
目標	60.4	61.0	61.9	62.6	63.7

【評価】山地災害危険地区のうち、崩壊危険度が高くかつ生活への影響が大きい地区から計画的な事業の実施に努めた結果、平成 21 年度は、ほぼ計画どおりに着手できました。

【対応】県財政が厳しく、事業量の大幅な増加は見込めませんが、今後も崩壊危険度が高くかつ生活への影響が大きい地区から、優先的かつ計画的に着手します。



治山事業実施箇所

### 【森林被害】

【評価】各種対策を講じているにもかかわらず、近年、ニホンジカによる植栽木の食害や、ツキノワグマやニホンジカによる皮剥ぎ被害により、健全な森林の育成が阻害されている状況が拡大しています。

【対応】ニホンカモシカ、ツキノワグマ、イノシシに続いて、ニホンジカの「特定鳥獣保護管理計画」を策定するとともに、有害鳥獣捕獲などを通じ、野生動物の保護管理を適正に進めます。



クマ剥ぎ予防テープ巻き研修会

## ② 林業及び木材産業の振興

### 【木材生産・路網整備】

表－3 「素材（丸太）」の生産量

(単位：万m<sup>3</sup>)

年次	H17(計画時)	H19	H20	H21	目標(H23)
実績	31	31	30	31	40

(評価) 昨年を上回る約193km(約38%増)の路網を整備し、高性能林業機械12台の導入に助成し、施業プランナー15名、オペレーター3名の育成に努めるなど生産基盤の整備に努めました。しかし、景気後退による木材需要の低迷から素材生産量は横ばいでした。

(対応) 素材生産量の拡大のため「集約化実施計画」の策定区域を対象に、間伐・作業道整備に対する補助金等を重点交付します。また、高性能林業機械のオペレーターや、素材生産チーム養成のため、林業事業者の森林技術者チームを対象に実践型研修を行います。



高性能林業機械による木材生産

### 【製材・加工】

(評価) 中津川市では、平成22年度中の稼働を目指し、約10万m<sup>3</sup>のB材を必要とする「合板工場」の整備が進んでいます。また、下呂市では、木質ペレット製造施設と利用施設が一体的に整備されるなど、木材需要拡大策は順調です。

(対応) 木材直送システムの拡大、公有林等からの木材生産の促進、需給調整等、原木の安定供給体制づくりを進めます。



合板工場完成予想図

### 【県産材の利用】

表－4 県産材住宅の建設戸数

(単位：戸)

年度	H17(計画時)	H19	H20	H21	目標(H23)
実績	1,500	1,440	1,330	1,305	1,800

(評価) 全国の新設住宅着工戸数は46年ぶりの歴史的低水準(約78万戸、対前年25%減)となる中、県産材住宅の建設戸数は若干の減少にとどまりました。着工戸数の大幅な増加は期待できない状況のため、1戸あたりの県産材使用量を高めることや、増改築、リフォームなどへの対応を強化することが必要です。

(対応) 県産材の品質・性能表示を進めると共に、構造物や内装材への県産材利用に対して支援します。



県産材住宅



内装木質化

### ③ 人づくり及び仕組みづくりの推進

#### 【森林技術者】

表-5 高性能林業機械による伐採専門チーム数

年度	H17(計画時)	H19	H20	H21	目標(H23)
実績	18	22	25	31	35

参考：森林技術者数

(単位：人)

年度	H17(計画時)	H19	H20	H21
実績	1,143	1,145	1,156	1,162
(新規就業)	(62)	(75)	(94)	(87)



森林の仕事ガイダンス



青少年山しごと体験塾



緑の担い手参入研修



施業プランナー養成基礎研修

【評価】 高度な技術を身に付けた伐採専門チームは順調に育成されており、森林技術者数も増加傾向にあります。しかし、現場で不足している計画的な森林づくりを担う人材（施業プランナー等）の育成やスキルアップが必要です。

【対応】 地域林業の担い手不足を解消するため、建設業者の参入を進めます。より専門的な人材を育成するため、施業プランナーの「ステップアップ研修」を開催します。

#### 【県民との協働】

【評価】 流域が一体となった森林づくり等を推進する「森・川・海ひだみの流域連携協議会」がNPO等により設立されました。県財政が厳しい中、各種イベントの効率・効果的な開催が課題です。

【対応】 協議会が実施する活動に協力すると共に、積極的に外部資金を活用し、他イベントと連携することで効率化を図ります。



森・川・海ひだみの流域サミット

#### 【仕組みづくり】

表-6 地域が主体となった森林づくり組織（市町村森林管理委員会（仮称）の設置市町村数）

年度	H17(計画時)	H19	H20	H21	目標(H23)
実績	2	12	18	20	34

【評価】 新たに養老町、御嵩町で森林づくり組織が設立され、20市町村となりました。その結果、岐阜県の森林面積（863千ha）の93%（803千ha）をカバーしました。

【対応】 引き続き設置促進に努めると共に、既存組織の活動への指導・支援を行います。



市町村森林管理委員会（仮称）の活動状況

## ① 健全で豊かな森林づくりプロジェクト

### 環境保全と効率的な木材生産の両立を目指すモデル団地の形成



計画立案研修



作業道作設方法に関する研修



高性能林業機械による木材生産

#### (実績・評価)

- ◇ 「健全で豊かな森林づくりプロジェクト (=森プロ)」が、新たに4つのモデル団地で開始され、合計12のモデル団地となりました。また、「健全で豊かな地域林業チャレンジ事業 (=チャレンジ)」も新たに5地区で始まりました。
- ◇ 木材生産のコスト分析、低コストで壊れにくい道づくり、効率的な高性能林業機械の作業技術などの実地研修を行ったところ、延べ384名の参加がありました。
- ◇ 「環境保全と効率的な木材生産」の取組は、概ね期待どおりに広がっています。

#### (対応)

- ◇ 平成22年度は、新たに3つのモデル団地で「森プロ」に、新たに7地区で「チャレンジ」に取り組む予定です。また、効率的な木材生産の増大を図るため、新たに木材生産への参入を望む事業者や経営規模の拡大を目指す事業者へ技術支援を行います。

## ② 県産材流通改革プロジェクト

### 未利用木材資源の利用拡大と用途に応じた流通の合理化

#### (実績・評価)

- ◇ 合板工場(中津川市)や木質チップ・ペレット製造施設(揖斐川町)の整備は順調に進んでいます。また、新生産システムモデル事業で整備した工場で利用される木材の91.4%が、中間土場等で仕分けられ、直接納入されるなど流通の効率化が進んでいます。

#### (対応)

- ◇ 今後予想される木材需要の拡大に向け、木材を用途別に仕分けし安定供給する仕組みづくりや、需要側と供給側の情報共有の仕組みの構築を行います。



中間土場(高山市)

### ③ ぎふの木で家づくりプロジェクト

県産材を使用したいと思う消費者と工務店等の拡大による県産材住宅の建設促進



県産材住宅の上棟



福祉施設の内装木質化



木造住宅70坪作り-養成研修

#### (実績・評価)

- ◇ 県産材を一定量使用した住宅を建設する建築主に20万円を助成する「ぎふの木で家づくり支援事業」には、募集200棟を上回る243棟の応募がありました。
- ◇ しかし、内装木質化の事業については、募集件数に比べ応募が下回っています。
- ◇ 今後は、長期優良住宅などの住宅ニーズに対応するため、含水率や強度等の品質性能が表示された県産材の供給が必要です。

#### (対応)

- ◇ 産地・合法証明に加え、品質・性能を表示したぎふ性能表示材の供給体制を構築するため、「ぎふ性能表示材認証センター」が行う品質管理指導等に対して支援します。

### ④ 県民協働による森林づくりプロジェクト

社会全体で森林づくりを支える県民運動の展開と地域推進体制の構築

#### (実績・評価)

- ◇ 「企業との協働による生きた森林づくり」協定が、アサヒビール(株)、(株)NTTドコモ、(生協)コープぎふと新たに結ばれるなど、広がりをを見せています。

#### (対応)

- ◇ 厳しい経済状況の下でも、企業の環境意識は高まっているため、引き続き企業への情報提供や、協働による森林づくり活動に協力します。

企業との協働による森林づくり活動

「プレーヤーの森 郡上」  
「イビデンの森」  
「伊田口福寿会の森林づくり」  
「大垣市多良岐森林公園」  
「太平洋里山の森」  
「カンチ安食の森」  
「コープぎふの森・関」  
「ドコモ土岐の森」  
「トヨタ紡績グループ「環境の森」加子母」  
「J.Tの森 中津川」  
「岐阜造園・水土保全の森みたけ」  
「アサヒビール 木曾川 水瀬の森・みたけ」

① **岐阜地域** (岐阜市・各務原市・山県市・本巣市) 森林面積：59千ha、森林率：59.2%

- ◆間伐実施面積：1,117ha (目標面積の95%)
- ◆治山事業：14箇所を実施 (着手率71%)
- ◆林道開設：904m、作業道開設：19,082m
- 内装材に県産材を多く使った美山中学校の新築に助成
- 森プロ「円原森林づくりプロジェクト(山県市)」を開始
- 管内の3つの林業事業体が「チャレンジ事業」を開始



美山中学校(山県市)

② **西濃地域** (大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町) 森林面積：23千ha、森林率：41.0%

- ◆間伐実施面積：510ha (目標面積の166%)
- ◆治山事業：10箇所を実施 (着手率62%)
- ◆林道開設：644m、作業道開設：4,120m
- ガシナガキイムシ駆除事業を大垣市と養老町で実施
- 木育教室を城山幼稚園(海津市)で開催
- 「養老町森林管理委員会」が8月4日に設立



ガシナガキイムシ駆除(大垣市)

③ **揖斐地域** (揖斐川町・大野町・池田町) 森林面積：76千ha、森林率：86.2%

- ◆間伐実施面積：693ha (目標面積の61%)
- ◆治山事業：26箇所を実施 (着手率77%)
- ◆林道開設：1,385m、作業道開設：2,801m
- クマの剥皮被害防止のためのテープ巻きを揖斐川町で実施
- 「いび森林資源活用センター」が12月15日に発足
- 「イビデンの森」の森林づくり活動を実施



イビデンの森植樹活動(揖斐川町)

④ **中濃地域** (関市・美濃市) 森林面積：48千ha、森林率：80.7%

- ◆間伐実施面積：1,401ha (目標面積の104%)
- ◆治山事業：13箇所を実施 (着手率62%)
- ◆林道開設：988m、作業道開設：3,871m
- 7つの小中学校で「緑と水の子ども会議」を開催
- 「コープぎふの森・関」の協定を2月15日に締結
- 低コスト木材生産システムによる間伐・作業路開設研修を実施



間伐実施林(関市)

⑤ **郡上地域** (郡上市) 森林面積：93千ha、森林率：89.8%

- ◆間伐実施面積：3,013ha (目標面積の89%)
- ◆治山事業：22箇所を実施 (着手率54%)
- ◆林道開設：1,952m、作業道開設：24,193m
- 境界確定の杭打作業を22箇所(895ha)で実施
- 「施業プランナー」2名を養成
- 災害に強い路網開設技術の普及のための研修会を開催



土砂崩壊箇所の復旧(郡上市)



**⑥可茂地域** (美濃加茂市・可児市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町) 森林面積：61千ha、森林率：73.3%

- ◆間伐実施面積：1,497ha (目標面積の113%)
- ◆治山事業：9箇所を実施 (着手率48%)
- ◆林道開設：2,114m、作業道開設：42,649m
- 「子供のための治山工事見学会」を開催
- 富加町・白川町・御嵩町の公共施設の木造化・木質化に助成
- 御嵩町森林管理委員会が3月25日に設立



森林基幹道加茂東線 (白川町)

**⑦東濃地域** (多治見市・瑞浪市・土岐市) 森林面積：24千ha、森林率：63.8%

- ◆間伐実施面積：306ha (目標面積の137%)
- ◆治山事業：6箇所を実施 (着手率64%)
- ◆作業道開設：5,650m
- 瑞浪市で防災意識の向上のための地区座談会を開催
- 瑞浪市の市立幼稚園の木造化改築工事に助成
- 「ドコモ土岐の森」の協定を11月1日に締結



防災座談会の開催 (瑞浪市)

**⑧恵那地域** (中津川市・恵那市) 森林面積：93千ha、森林率：78.6%

- ◆間伐実施面積：2,297ha (目標面積の100%)
- ◆治山事業：39箇所を実施 (着手率78%)
- ◆林道開設：2,182m、作業道開設：23,471m
- 中津川市で木製ベンチ、小中学校への木製机・椅子の導入に助成
- 恵那市で施業集約化に関する研修会を開催
- 森プロ「恵南第2プロジェクト (恵那市)」を開始



木材生産の実施状況 (恵那市)

**⑨下呂地域** (下呂市) 森林面積：78千ha、森林率：91.9%

- ◆間伐実施面積：1,734ha (目標面積の109%)
- ◆治山事業：18箇所を実施 (着手率57%)
- ◆林道開設：2,154m、作業道開設：22,624m
- 「ひのき畳ベンチ」を名古屋市の公共施設に設置
- 企業による森林環境教育の出前講座を2校で開催
- 木質ペレット製造施設と温泉施設の木質ペレットボイラーの導入に助成



木質ペレットボイラー (下呂市)

**⑩飛騨地域** (高山市・飛騨市・白川村) 森林面積：309千ha、森林率：92.9%

- ◆間伐実施面積：1,805ha (目標面積の62%)
- ◆治山事業：34箇所を実施 (着手率56%)
- ◆林道開設：2,135m、作業道開設：26,581m
- 再生可能なエネルギーの安定供給・消費サイクルを構築するため、「ひだ自然エネルギー協議会」が設立
- 林建協働による「たかやま林業・建設業協同組合」の設立



林建協働 (高山市)

## V 岐阜県の森林・林業を取り巻く現状

### 1. 森林

#### ① 森林資源

県土面積	1,062 千 ha	全国第 7 位
森林面積 (国有林を含む)	866 千 ha	全国第 5 位
森林率 (県土面積に対する森林面積の割合)	82 %	全国第 2 位
民有林面積	685 千 ha	全国第 3 位
人工林面積 (国有林を含む)	387 千 ha	全国第 6 位
天然林面積 (国有林を含む)	436 千 ha	全国第 7 位

資料：林野庁計画課「森林資源の現況」(平成 19 年 3 月 31 日)

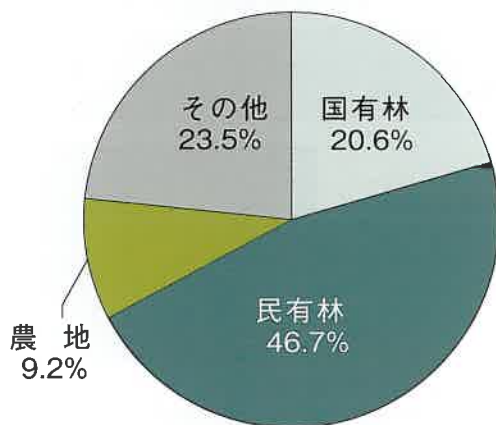
国土面積・県土面積は、全国市町村要覧平成 19 年度版

**人工林**：人為的に苗木を植栽することにより育てられた森林。スギやヒノキなどの針葉樹が中心。

**天然林**：更新に人の手が加えられていない森林、またはほとんど手が加えられず自然のままになっている森林。ブナ、ミズナラ、クリ、コナラ、カシ類などの広葉樹が中心。

- 岐阜県の森林面積は 863 千 ha(平成 20 年度)と県土面積の 81.3% を占めています。内訳は、国有林が 180 千 ha、民有林が 683 千 ha で民有林は県土面積の 64.3% を占めています。全国に比べ民有林の割合が高く、民有林面積は平成 18 年度末現在で全国第 3 位です。

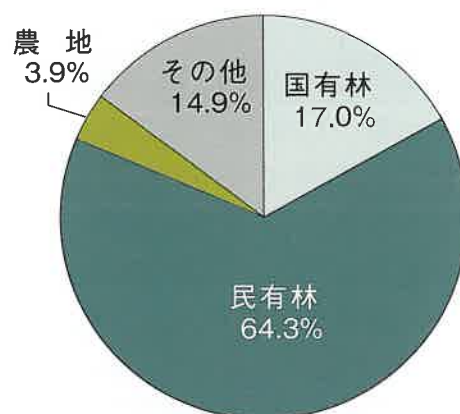
土地(面積割合:全国)



森林面積: 25,097 千 ha(平成 18 年度)

資料：林野庁「森林資源の現況」(平成 19 年 3 月 31 日)  
農林水産省「2005 年世界農林業センサス」

土地(面積割合:岐阜県)

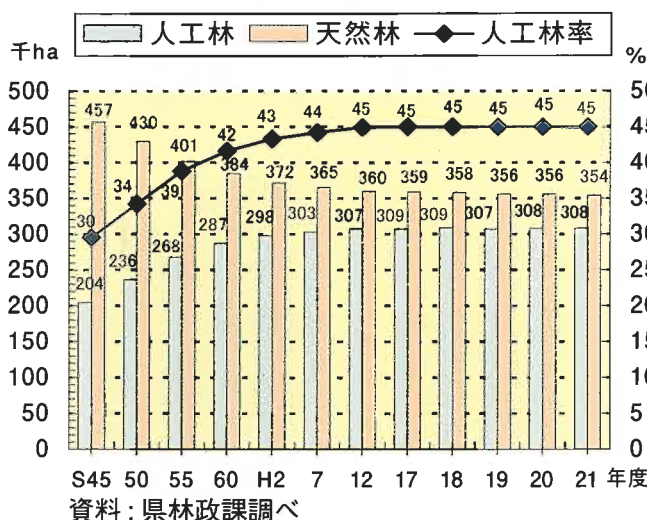


森林面積: 863 千 ha(平成 20 年度)

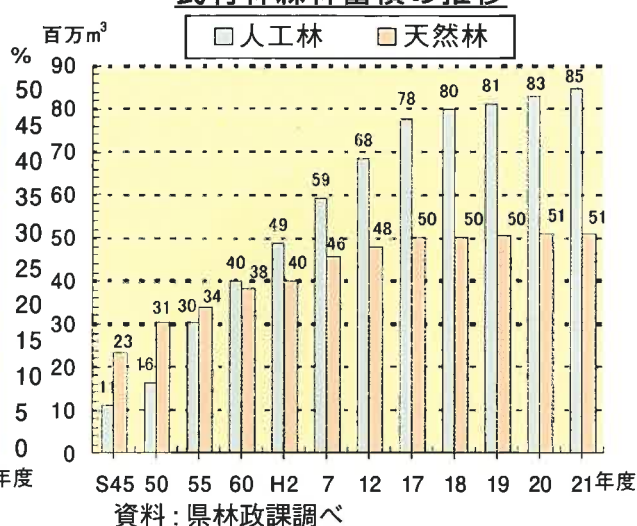
資料：国有林面積は中部森林管理局調べ  
民有林面積は県林政課調べ  
農地面積は農林水産省「2005 年世界農林業センサス」

- ・ 森林蓄積は年々増加しており、私有林蓄積は 135,638 千 $m^3$ となっています。特に人工林蓄積が著しく増加しています。

私有林森林面積の推移

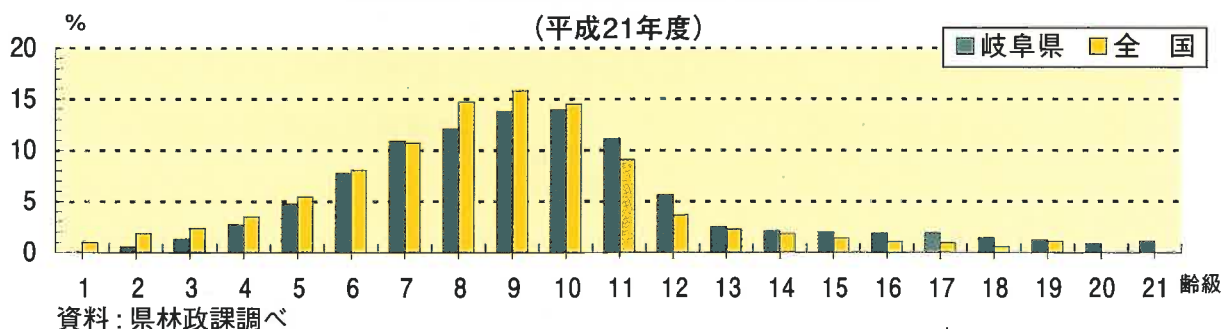


私有林森林蓄積の推移

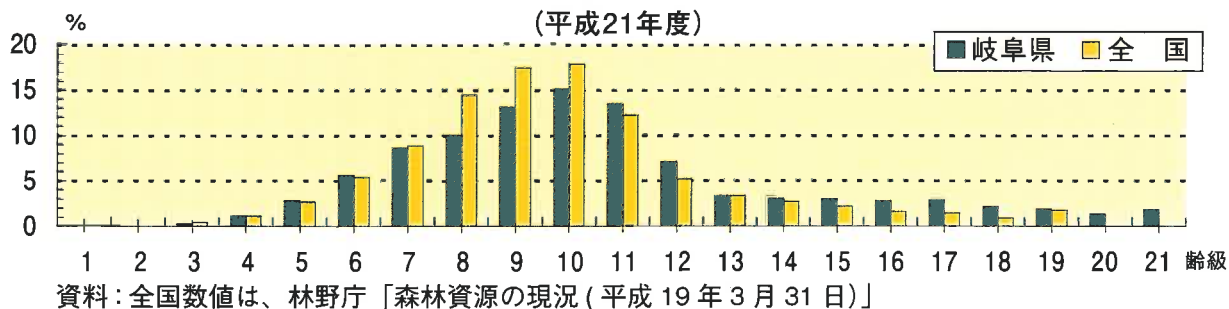


- ・ 私有林人工林のうち 35 年生以下（7 齢級以下）の若・幼齢林の面積は 87 千 ha、全体の 28% を占めており、除間伐などの保育施業の実施が重要となっています。
- ・ また、間伐の対象となる 11～35 年生の人工林面積は 85 千 ha で、私有林人工林の 28% を占めています。

私有林人工林面積 全国：7,971千ha 岐阜県：308千ha  
私有林人工林齢級別面積分布(岐阜県)



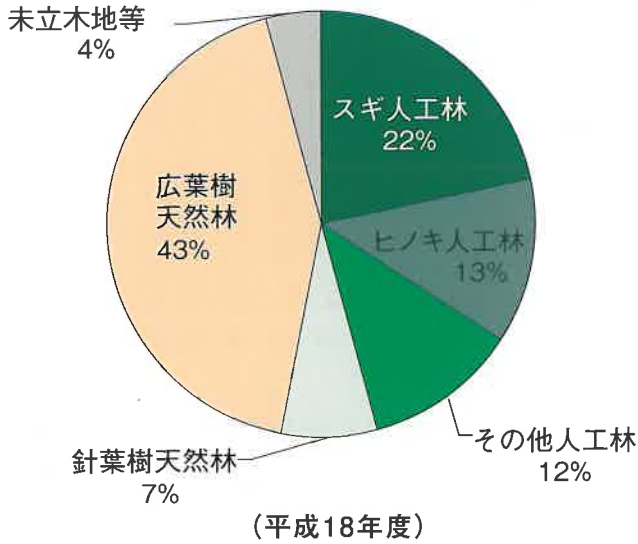
私有林人工林蓄積 全国：2,223百万 $m^3$  岐阜県：84,722千 $m^3$   
私有林人工林齢級別蓄積分布(岐阜県)



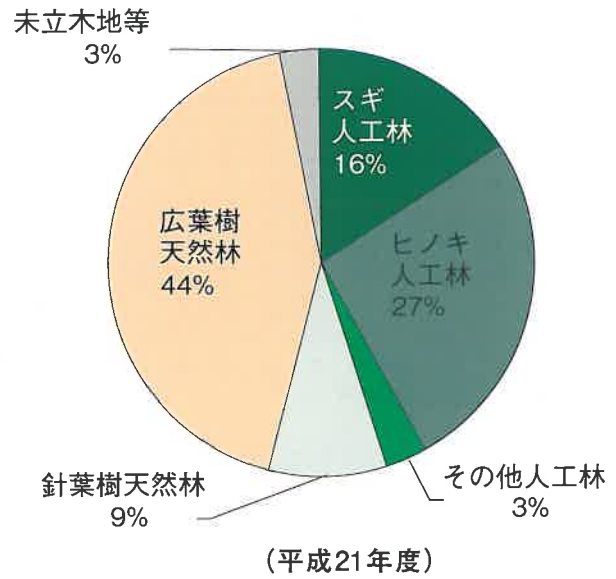
注：全国数値は 20 齢級以上の集計はしていない。

- ・ 民有林の樹種別面積をみると、ヒノキ人工林の割合が全国数値に比較して高くなっています。平成 18 年度末現在、本県のヒノキ人工林面積・蓄積は、高知県に次いで第 2 位となっています。

民有林樹種別面積(全国)



民有林樹種別面積(岐阜県)



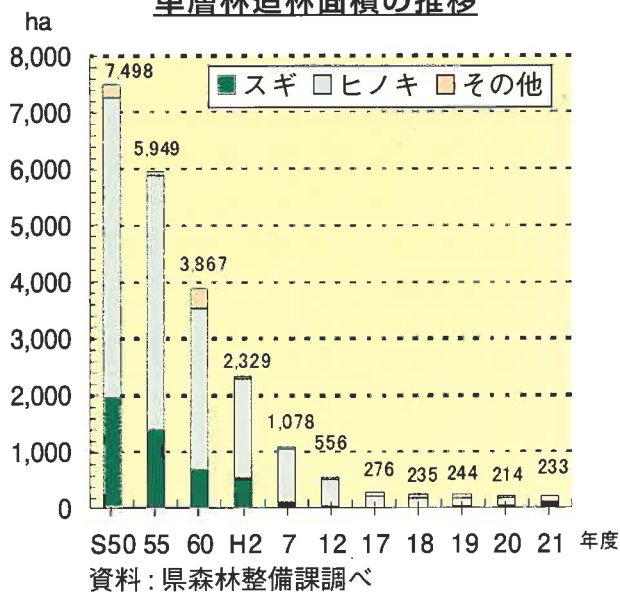
資料:林野庁「森林資源の現況(平成19年3月31日)」

資料:県林政課調べ

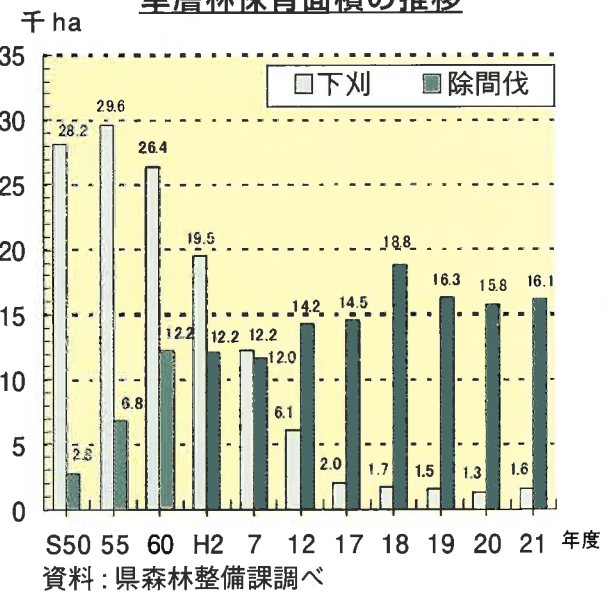
## ② 森林整備

- ・ 単層林造林面積は昭和 50 年当時から減少傾向が続いています。平成 21 年度は 233ha (対前年度比 109%) であり、そのうちヒノキが 119ha と造林面積の 51% を占めています。

単層林造林面積の推移

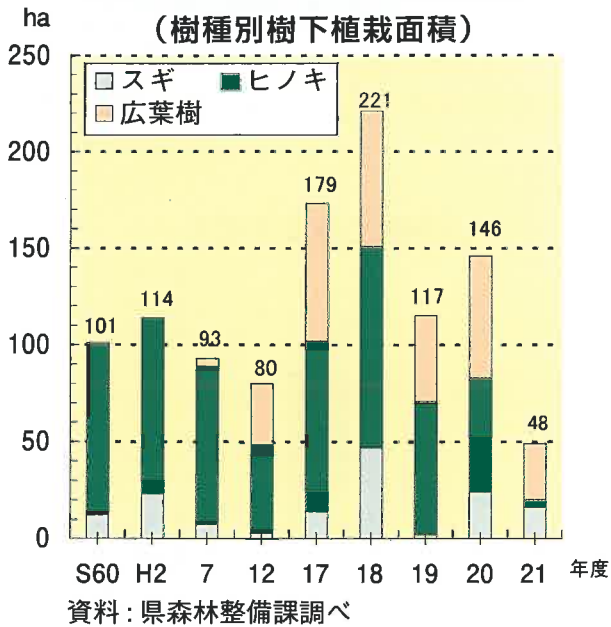


単層林保育面積の推移

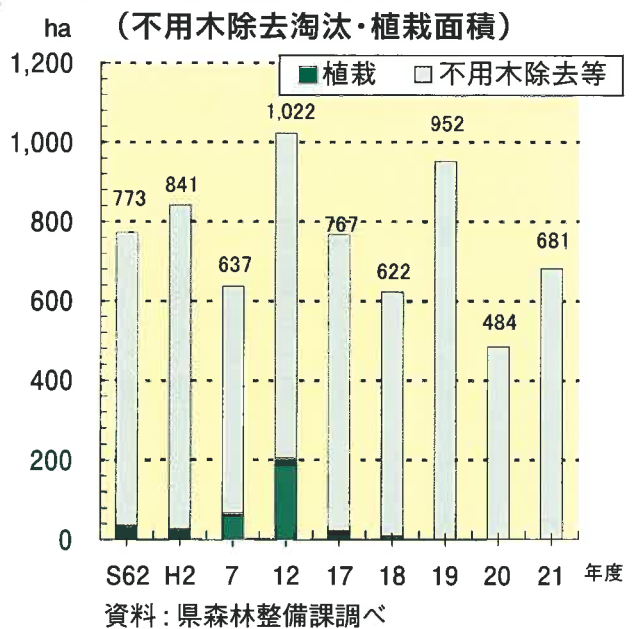


- ・ 下刈面積は昭和 55 年度以降減少傾向が続き、近年は 1,000ha 台で推移しています。
- ・ 除間伐面積は平成 21 年度で 16 千 ha となっており、適正な森林管理を行うために、さらなる除間伐の推進が重要となっています。

### 複層林整備(植栽型)面積の推移



### 育成複層林整備(天然更新型)面積の推移

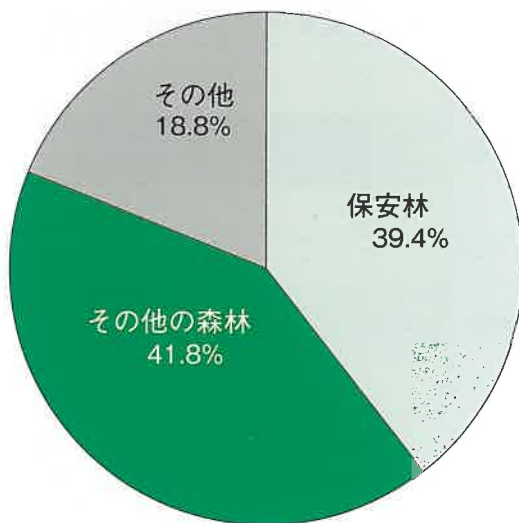


### ③ 県土の保全

- ・ 保安林面積は平成21年度418,533haであり、そのうち民有保安林が245,310ha、国有保安林が173,223haで、県土面積の39.4%、森林面積の48.5%を占めています。
- ・ 保安林の65.1%は、水資源の確保に重要な役割を果たしている水源かん養保安林で、続く32.2%が土砂流出防備保安林となっています。

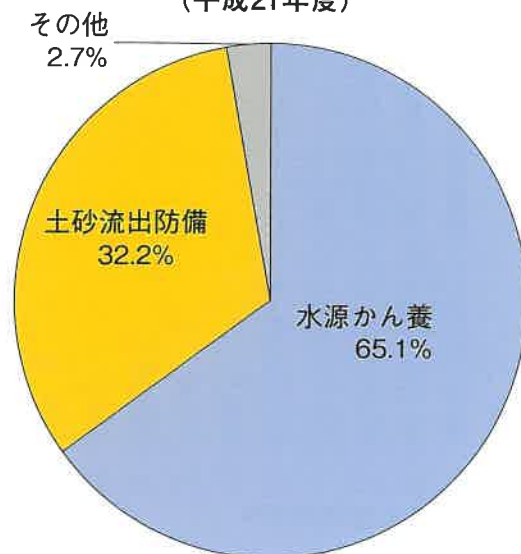
#### 県土面積に占める保安林の割合

(平成21年度)



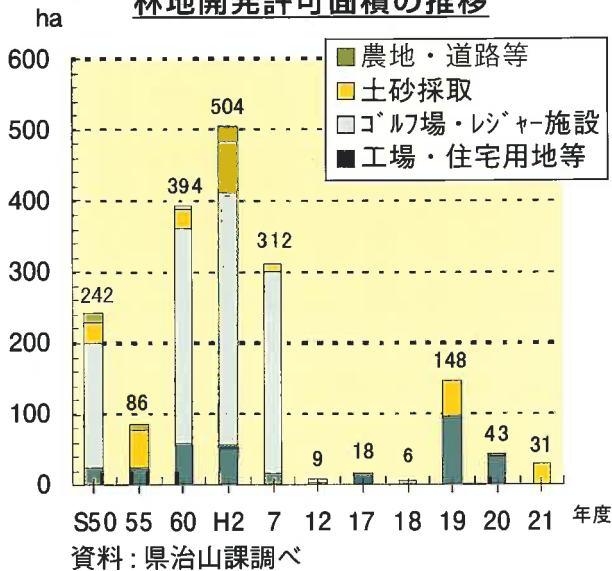
#### 保安林の種類別構成割合

(平成21年度)

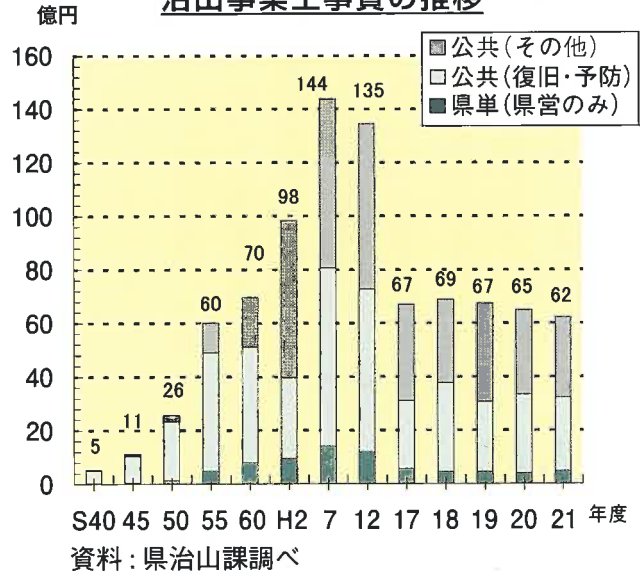


- 平成 21 年度の林地開発許可件数及び面積は 1 件、31ha で、前年度より減少しました。林地開発行為許可制施行後、最も多かった平成 2 年度 (504ha) の 6.2% です。
- 平成 21 年度の治山事業工事費 (公共・県単 (県営のみ)) は 61.9 億円で、対前年度比 95.3% と減少しています。

林地開発許可面積の推移

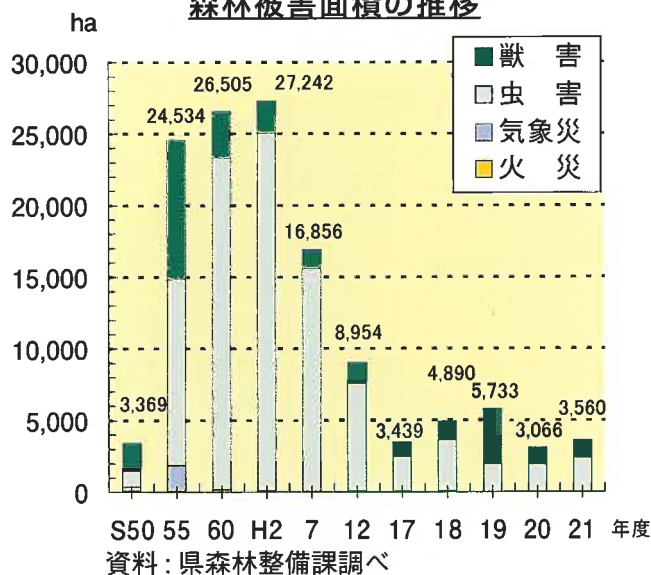


治山事業工事費の推移

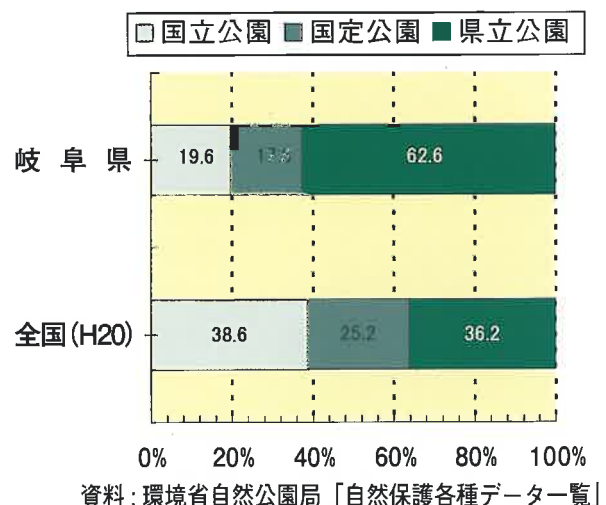


- 平成 21 年度の森林被害面積は 3,560ha で、うち 3,556ha (構成比 99.9%) が病虫獣害によるものです。

森林被害面積の推移



自然公園面積の割合 (平成21年度)



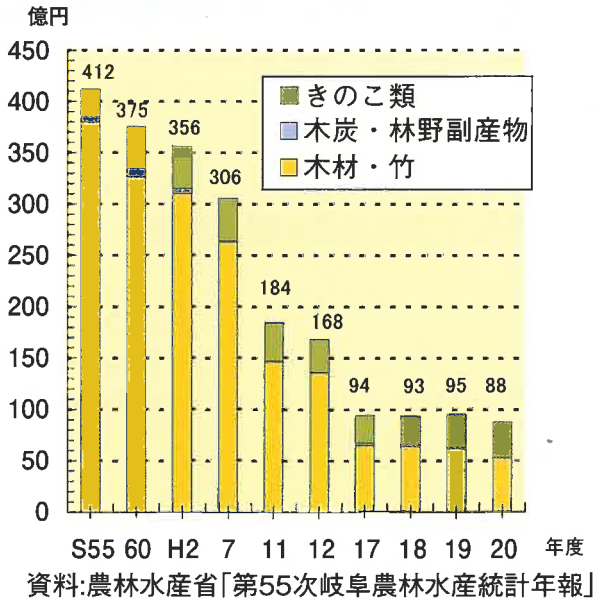
- 本県の自然公園面積は、平成 21 年度末現在 195,092ha で、県土に占める割合は 18.4% となっています。これは全国平均の 14.3% に比べ高く、中でも県立自然公園の割合が高くなっています。

## 2. 林業・木材産業

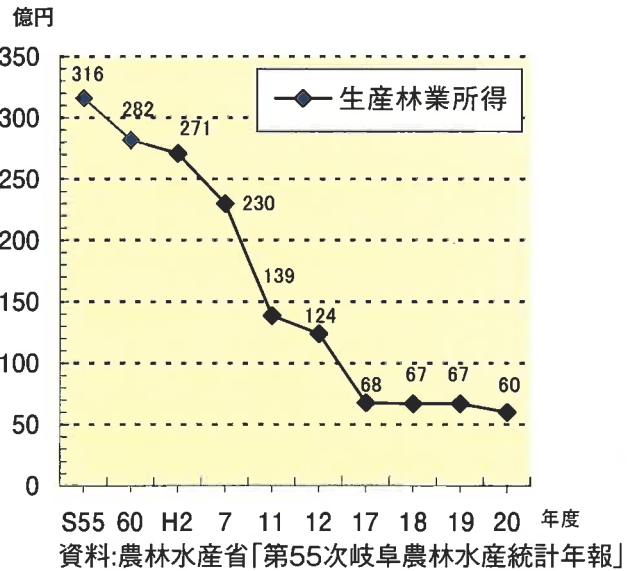
### ① 林業経営

- 平成20年度の林業産出額（林業粗生産額）は88億円（対前年度比92.4%）、生産林業所得は60億円（対前年度比89.4%）となっています。

林業産出額（林業粗生産額）の推移

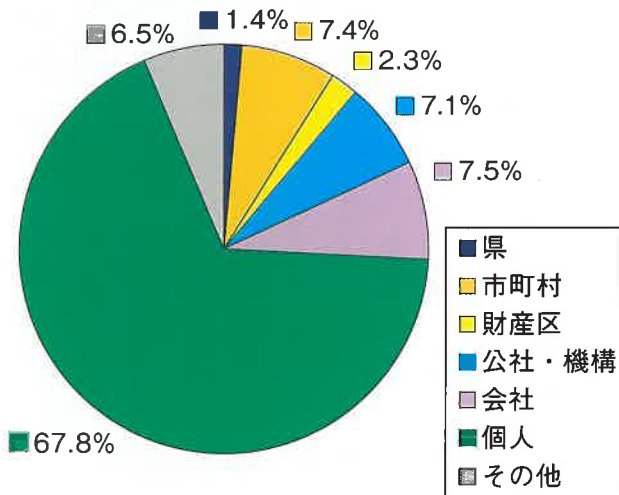


生産林業所得の推移

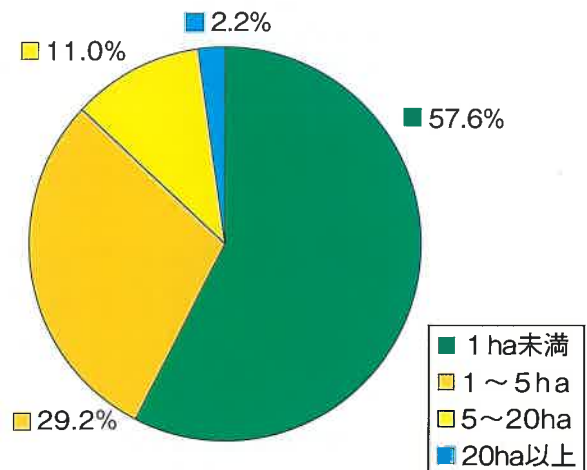


- 県下の民有林面積のうち私有林が88.9%、公有林が11.1%となっています。私有林の内訳は個人所有が最も多く、私有林全体の76.3%を占めています。
- 個人所有の規模別体数をみると、所有面積1ha未満が57.6%を占め、1～5haと合わせると全体の86.8%が5ha未満の零細な所有となっています。

所有形態別民有林面積の割合  
(平成21年度)



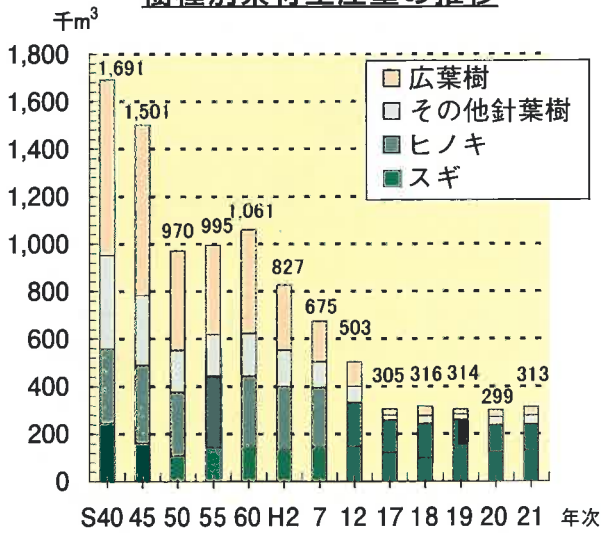
個人所有林の所有規模別体数の割合  
(平成21年度)



## ②木材生産・木材需要

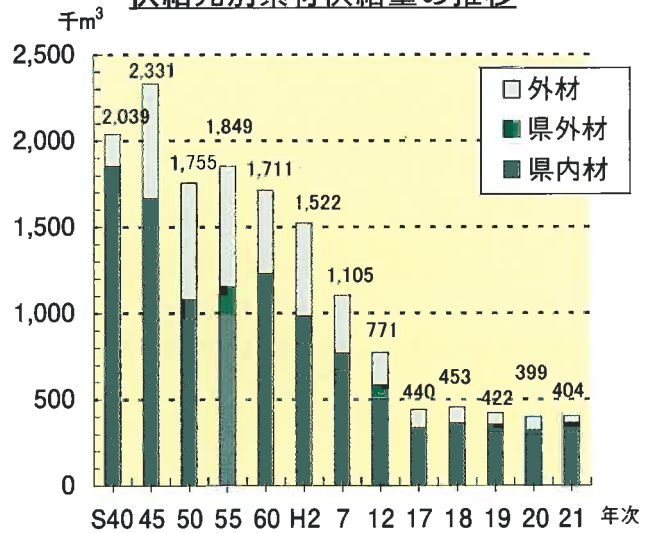
- ・ 平成 21 年の素材生産量は 313 千 m<sup>3</sup> で、前年より 14 千 m<sup>3</sup> 増加しました。
- ・ 樹種別では、スギが最も多く生産されており 131 千 m<sup>3</sup>（構成比 41.9%）となりました。
- ・ 平成 21 年の素材の供給量は 404 千 m<sup>3</sup> で、前年より 5 千 m<sup>3</sup> 増加しました。このうち県内材の供給量は 313 千 m<sup>3</sup> で全体の 77% を占めています。
- ・ 平成 21 年の素材の県内需要は、302 千 m<sup>3</sup> で、そのうち製材用の割合が 90.7% と最も高くなっています。
- ・ 平成 21 年度の新設住宅着工戸数は 11,467 戸で、前年度に比べて 3,767 戸減少しました。木造率は 72.5% と増加しています。

### 樹種別素材生産量の推移



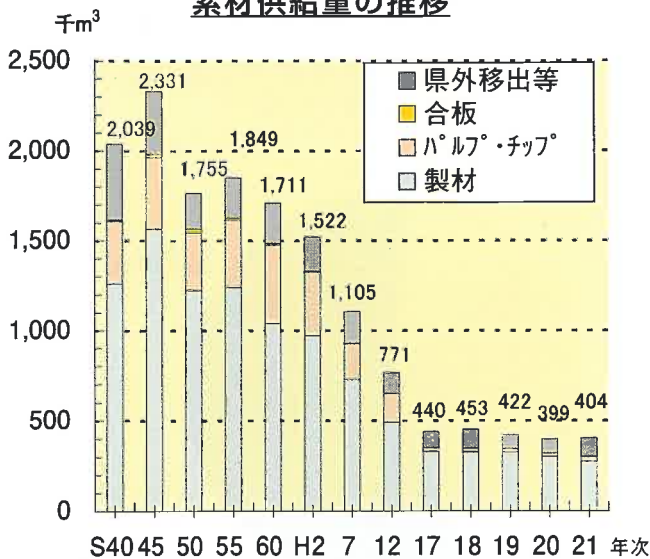
資料：農林水産省「木材需給報告書」

### 供給元別素材供給量の推移



資料：農林水産省「木材需給報告書」

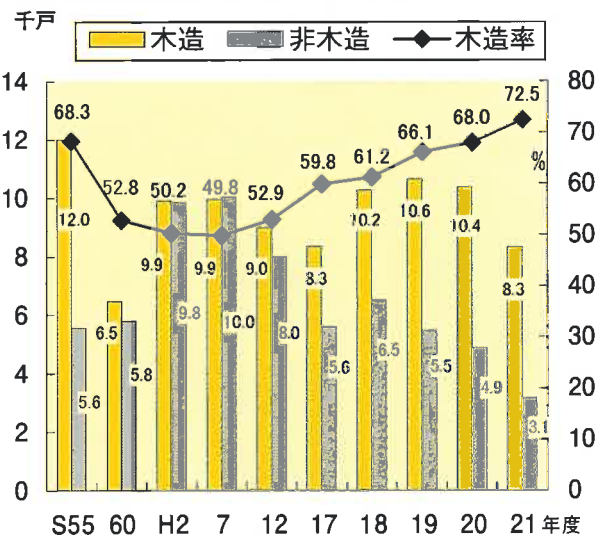
### 素材供給量の推移



資料：農林水産省「木材需給報告書」

注：調査の中止により 13 年度以降の「ハルブ・チップ」は「チップ」のみの数値

### 新設住宅着工戸数と木造率の推移



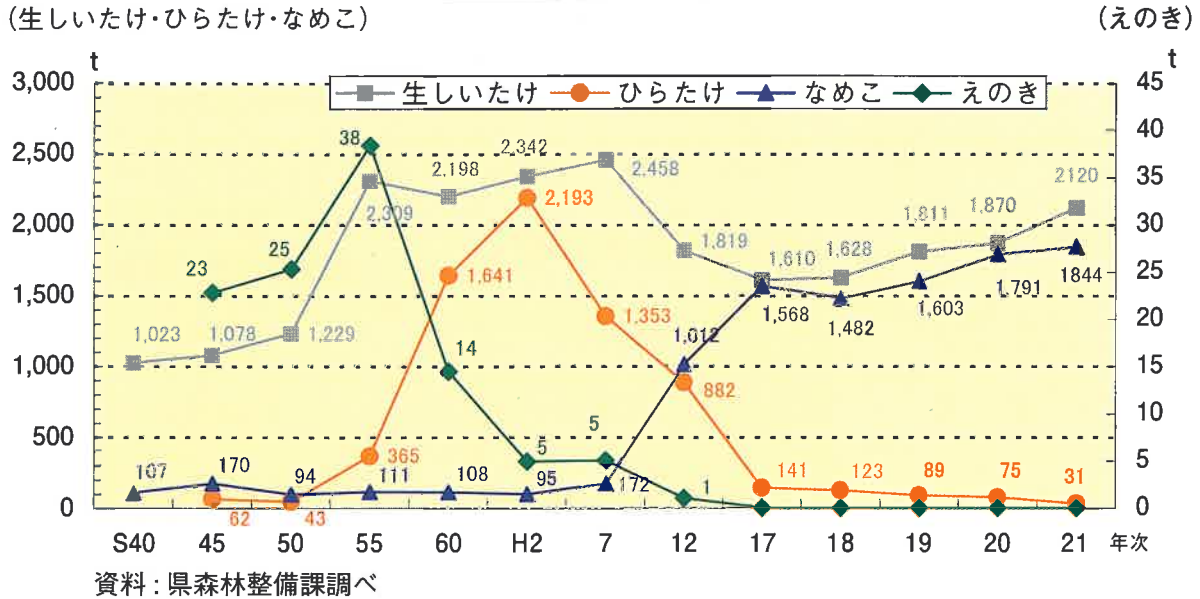
資料：県建築指導課「着工新設住宅概報」



### ③ 特用林産物

- 平成 21 年のきのこ類の生産量は、「生しいたけ」は 2,120t で対前年比 113.4%、「なめこ」は 1,844t で対前年比 103.0%となっています。

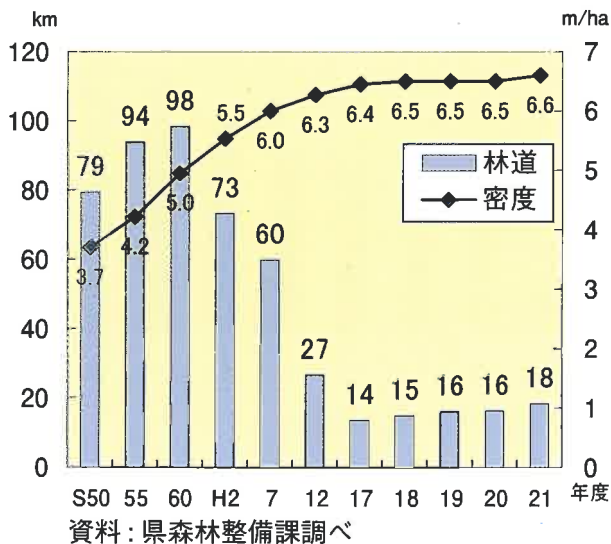
きのこ類生産量の推移



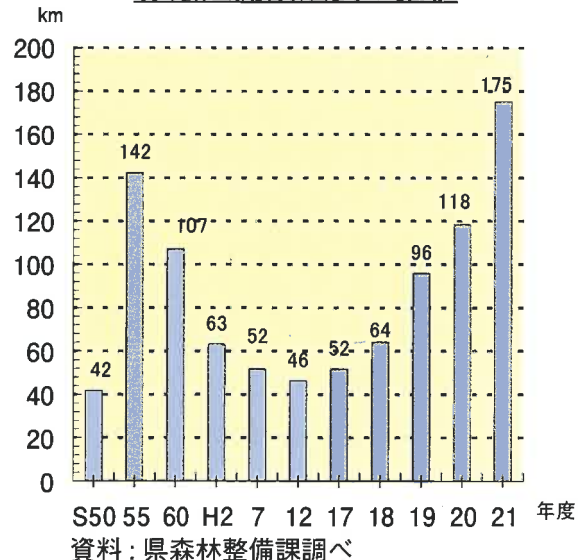
### ④ 林道・作業道

- 平成 21 年度の林道（自動車道と軽車道の計）開設延長は 18.4km で、対前年度比 112.9%となっています。総延長は 4,486km、2,055 路線となっています。また民有林林道密度（自動車道と軽車道の計）は、6.6m/ha となっています。
- 作業道の開設は、造林補助事業、路網整備地域連携モデル事業等で実施されており、平成 21 年度の開設延長は 175.0km で、対前年度比 147.8%と前年度を大きく上回っています。

林道開設延長と林道密度の推移

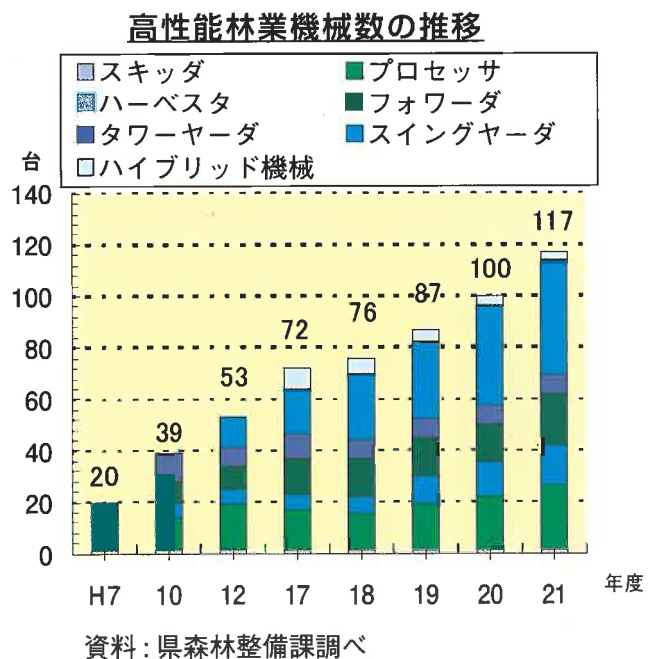
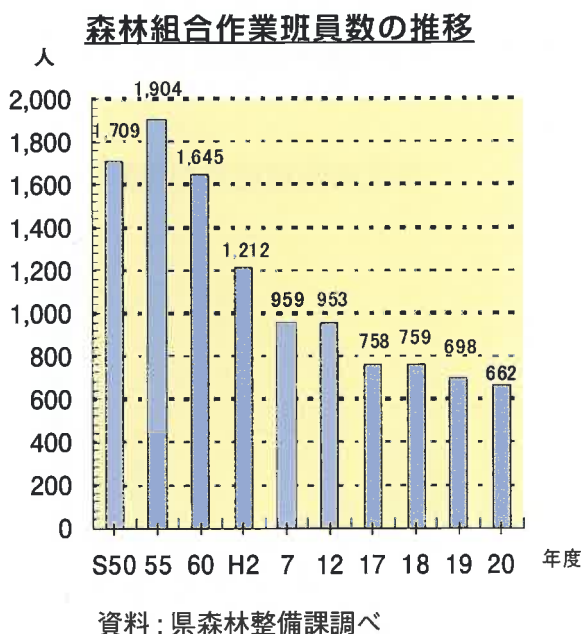
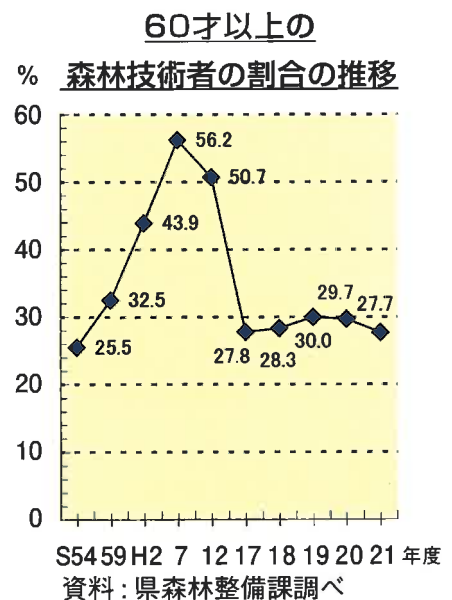
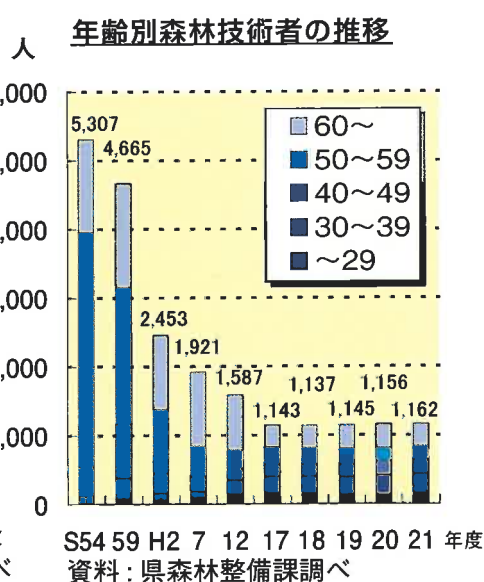
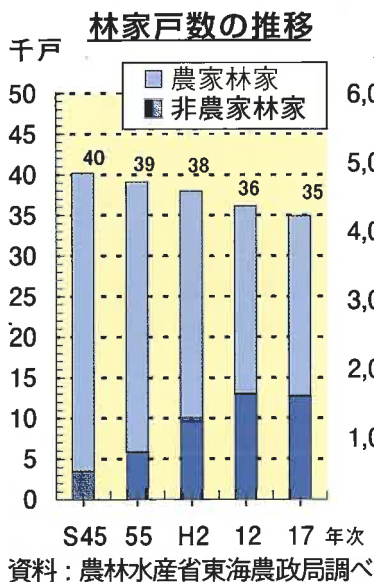


作業道開設延長の推移



### ⑤ 林業労働力・林業機械

- ・ 林家（保有山林 1ha 以上）戸数は減少傾向にあります。平成 12 年度調査に比べ農家林家数は 963 戸（4%）減少、非農家林家数は 261 戸（2%）減少となっています。
- ・ 平成 21 年度の森林技術者数は 1,162 人で、前年度（対前年度比 100.5%）を若干上回っています。
- ・ 平成 20 年度の森林組合の作業班員は 662 人で、前年度に比べて 36 人減少しました。
- ・ 生産性の向上、労働環境の改善などの効果が期待される高性能林業機械は、平成 5 年に導入されて以来年々増加し、平成 21 年度には県下で 117 台となっています。



### 3. 森林の多面的機能の評価額

森林の多面的機能の評価額・・・森林は私たちの生活に欠くことのできない様々な働きを持っています。

◆ 森林が持つさまざまな機能をお金に換算し評価（試算）すると、下表のとおりです。

（単位：億円）

機能の種類	全国 評価	岐阜県 評価	全国比 (%)	説明	試算方法
二酸化炭素 吸収	12,391	471	3.8	温暖化の原因である二酸化炭素を吸収する機能	木質バイオマスの増量から森林の二酸化炭素吸収量を算出し、火力発電所における科学的湿式吸着法による二酸化炭素回収コストで代替し評価
化石燃料代 替	2,261	42	1.9	木材を使うことで二酸化炭素の放出を抑制する機能	現在の木造住宅がすべてRC造、鉄骨プレハブで建設された場合に増加する炭素放出量算定し、これを火力発電所科学的湿式吸着法による二酸化炭素回収コストで代替し評価
表面浸食防 止	282,565	6,739	2.4	下草や落枝落葉に覆われていることにより地表の浸食を抑制する機能	有林地と無林地における土砂の年間浸食深の差と森林面積により、森林地域全体の浸食土砂量の差を森林による浸食防止量とし、これを砂防えん堤で代替
表層崩壊防 止	84,421	2,914	3.5	森林の樹木が地中に深く根を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ機能	有林地と無林地における崩壊面積の差から森林による崩壊軽減面積を推定し、これを山腹工事費用で代替
洪水緩和	64,686	2,493	3.9	森林の土壌が、雨水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和する機能	直接流出量（洪水流量）を軽減し、豪雨時のピーク流量を低下させる森林の機能を洪水防止機能として評価することとし、森林と裸地の比較において流量調節量を算定し、これを治水ダムで代替
水資源貯留	87,407	4,110	4.7	森林の土壌はスポンジのように隙間がたくさんある構造になっており、この隙間に水を蓄える機能	森林地帯への降水量から樹冠による遮断、樹木による蒸散を差し引いて算定し、これを利用ダムで代替
水質浄化	146,361	5,665	3.9	雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される機能	「水資源貯留機能」で試算した地形要因を加味しない流域貯留量のうち、生活用水として利用されている量相当分を水道料金で代替、その他を雨水利用施設で代替
保健休養	22,546	775	3.4	樹木がフィトンチッドに代表される揮発性物質を出すことで、人に対し直接的な健康増進効果を与える機能。また、行楽やスポーツの場を提供する機能	（社）日本観光協会「観光の実態と志向」（平成10年9月調査）をもとに、自然風景をみることを目的とした旅行費用から算定
合計	702,638	23,209	3.3	県民1人あたり：約110万円 森林1haあたり：約270万円	

<参考>	全国	岐阜県	全国比	
森林面積	25,121	866	3.4%	

注：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」（平成13年11月1日）及び国答申に基づく岐阜県の試算による。岐阜県の試算は平成13年度データに基づく。

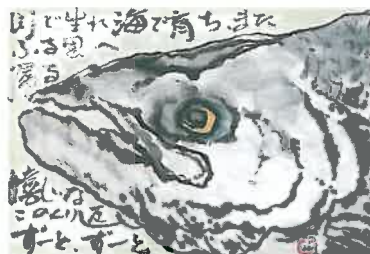
平成21年  
第11回「山村・山」絵てがみコンクール  
最優秀作品

子どもの部



河合 陸人くん  
作品名「いもりくん」

一般の部



長谷川 明美さん  
作品名「森が育てる豊かな森・川・海」

八月八日は「ぎふ山の日」、八月は「ぎふの山に親しむ月間」



ミナモ

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会  
マスコットキャラクター



あすはちゃん

岐阜県  
森林づくりキャラクター



ヤマリン

第30回全国豊かな海づくり大会  
～ぎふ長良川大会～キャラクター

平成21年度 森林・林業施策の進捗について

(平成21年度「岐阜県森林づくり基本計画」に基づく施策の実施状況報告書 概要版)

—平成22年12月—

編集・発行 岐阜県林政部林政課  
〒500-8570 岐阜市藪田南2丁目1番1号  
電 話 058-272-1111 (代表)  
F A X 058-278-2702  
E - m a i l c11511@pref.gifu.lg.jp